

よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹へ親しみを込めて呼ぶ通称のことです。

論語から学ぼう

(記念館玄関横案内板に掲示中です)



《 第80号 》 (2022年8月発行)

令和4年度前期企画展
「藤樹神社宝物展」より

シリーズ
よえもん



近江聖人中江藤樹記念館では、9月16日(金)から30日(金)まで、期間限定の特別展示として、「藤樹先生御絵伝」を展示します。

この絵伝は、昭和7年(1932)藤樹神社が建てられて10周年を記念して寄贈されました。京都で生まれ活躍した、日本画家の案本一洋(1893~1952)が描いたもので、今年亡くなってちょうど70年になります。

藤樹先生の生涯を13の場面で描いた作品で、この度は貴重な原画の1シーン『脱藩』を公開します。

- ①米子へ旅立つ、②文武両道、③大いに学問に励む、④母を思う、⑤脱藩、⑥舟中の詩、⑦久子夫人、⑧竹生島に遊ぶ、⑨伊勢神宮、⑩熊沢蕃山の入門、⑪賊をさとす、⑫臨終、⑬農夫の道案内



藤樹先生御絵伝『脱藩』 寛永11年(1634) 藤樹先生27歳秋の頃



論語「泰伯第八之十一 書 淵田瑞穂さん

もしオの周公の
もし騎の美有りと
其の客かならしめば
余は観るに
足らざるのみ

周公(周の文王の子、武王の弟、魯の始祖)

は孔子が理想とした人物で、「たとえ周公のように立派な才能をもっていたとしても、人に対してわがままで、けちけちした行動をしていたら、他にどんな長所があっても見てもいなくなる。」という意味です。人の気持ちをよく考えた行動ができるように、日頃から自分の行動を見つめなおすべきだと言う考えは、藤樹先生の教えにも共通しています。

孔子や藤樹は、「自己反省」の大切さについて、色々な言葉で伝えていきます。意外とむずかしく、勇氣のいる時もありますが、素直な気持ちで自分に向き合いたいものです。



編集後記 新着情報 etc

今月号も引き続き「藤樹書院のあゆみ」を紹介いたします。(先月号に続く)

★「藤樹書院のあゆみ」…そのような厳しい状況の中で人目を忍ぶようにして続けられてきた書院での講会が復活するのは、先生が没して約70年後の享保時代になってからです。各地から多くの学者が訪れて講義を行い、寛政8年(1796)には光格天皇から「徳本堂」の堂号が下賜されました。藤樹書院は門弟の熊沢蕃山をはじめとする多くの篤志者によって護られてきましたが、明治13年(1880)に村の大半を焼き尽くす大火によって惜しくも焼失しました。そのとき重宝は村人によって無事に持ち出され、2年後に仮の講堂として再建されたのが現在の藤樹書院です。自宅が類焼していく大火の中で神主、仕物、書籍などの全てを護り、我が家の再建に先んじて書院の復活を願った村の人たちの篤い思いが込められています。

《出典：良知館リーフレットより》

※お詫び…多数参加希望いただきました本年度の「了佐てらこや小学校」は新型コロナウイルス感染状況に鑑み、中止させていただきました。論語の素読や習字の学習を楽しみにしておられました皆様、申し訳ありませんでした。

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330

